

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	大学生の英語ライティングに見られる思考内容と思考過程の関係性				
研究組織	代表者	所属・職名	言語コミュニケーション研究センター・特任講師	氏名	相羽 千州子
	研究分担者	所属・職名	埼玉県立大学他・非常勤講師	氏名	出水 純二
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	言語コミュニケーション研究センター・特任講師	氏名	相羽 千州子

講演題目	The Use of CD in Writing at Japanese Universities
------	---

研究の目的、成果及び今後の展望

研究の目的: CLIL(Content and Language Integrated Learning)研究では、Bloomの思考分類と、思考に用いられる言語をつなぐ概念として、分類・定義・記述・説明・評価・探求・報告の7タイプから成るCDF (Cognitive Discourse Function)が提案されている(Dalton-Puffer, C. et al., 2018)。本研究では、スペインのバイリンガルCLILにおける分類・定義・評価のCDFの用法をレビューした上で、学生の英作文における、人物や出来事を評価(evaluate)するCDF、および因果関係を説明(explain)するCDFの用法を検討し、これらのCDFが、英語の習熟度、および英作文の話題(topics)とどのように関連しているかを明らかにする。

研究の成果: 2022年前期・後期に2大学の6クラスから収集したテキストデータをUAM CorpusTool 6.2e (O'Donnell, 2022)に取り込み、データセット1~3(それぞれ9977, 13787, 15515語)を得た。SFL(Systemic Functional Linguistics)に基づいて修正した評価・説明スキーマによる自動注釈付け、さまざまな過程を表す動詞の自動注釈付けを行ったのち、データセット内での各CDFや各プロセスの発生件数を、習熟度の高低、課題文の内容で検定処理した。結果は次の2点に集約される。1) 習熟度の高い学生のほうが人物を判断(judgement)することが多く、また、接続詞と従属節で因果関係を表現し、発言過程(verbal process)を使用することが多い。他方、習熟度の低い学生は、出来事への直接的な反応(reaction)が多い。2) 説明のCDFの用法は、話題に依存する。具体的には、名詞(群)で表現される事象が支配的な内容の場合、原因や結果などの状況を表す副詞(群)、変化を表す物質過程(material process)が多用される(図1参照)。

教育的示唆には、原因を表す名詞と変化の動詞を課題の中で与えた上で結果を書かせる低習熟度学生向けの指導などが含まれる。本研究の成果は、2023年3月14日、57th RELC International Conference(シンガポール、オンライン)において発表した。

今後の展望: 研究面では、SFLの理論を参照しながら探求(explore)のCDFのスキーマを作成し、新たなライティング課題でデータを収集する。教育面では、マイクロジャンルとしてのCDFを組み合わせて、さまざまなマクロジャンルに応用する指導を行い、ライティングでより複雑な思考を表現できるようになることが目指される。

S_C_TYPE	online-interview		self-driving-car		Comparison			
	N	%	N	%	ChiSqu	P	Signif	Effect Size
-enabling_and_determining_causation	273	68.1	278	65.3	0.74	0.3898		0.060
-abstract_causation	75	18.7	88	20.7	0.50	0.4802		0.049
-deducing_historical_significance	47	11.7	51	12.0	0.01	0.9111		0.008
-appraising_causation	6	1.5	9	2.1	0.44	0.5068		0.046
TOTAL	401	100.0%	426	100.0%				

E_D_TYPE	online-interview		self-driving-car		Comparison			
	N	%	N	%	ChiSqu	P	Signif	Effect Size
-causal_conjunction_dependent_cause	121	30.2	110	25.8	1.94	0.1632		0.097
-circumstance_of_cause	55	13.7	34	8.0	7.07	0.0078	+++	0.186
-external_conjunctive_adjunct	71	17.7	51	12.0	5.40	0.0201	++	0.162
-external_causal_process	26	6.5	83	19.5	30.51	0.0000	+++	0.399
TOTAL	273	68.1%	278	65.3%				

AB_TYPE	online-interview		self-driving-car		Comparison			
	N	%	N	%	ChiSqu	P	Signif	Effect Size
-nominalization	75	18.7	88	20.7	0.50	0.4802		0.049
TOTAL	75	18.7%	88	20.7%				

D_TYPE	online-interview		self-driving-car		Comparison			
	N	%	N	%	ChiSqu	P	Signif	Effect Size
-int.caus.conjunction	0	0.0	4	0.9	3.78	0.0518	+	0.194
-int.caus.conj.adjunct	46	11.5	44	10.3	0.28	0.5979		0.037
-internal_causal_process	1	0.2	3	0.7	0.89	0.3461		0.068
TOTAL	47	11.7%	51	12.0%				

図1 UAM CorpusTool6.2e 統計処理画面例